

令和6年度 研究の概要

A34グループ

班 筒井小 高尻 朋弥 授 豊田小飯田 悠太 上名古屋小 木村 正義
村雲小 中井 崇人 千音寺小 水井 聖清

数学的に考える力の育成

—3年「あまりのあるわり算」の指導を通して—

1 単元の目標

余りのあるわり算について、余りの意味やその計算の仕方を理解し、わる数と余りの大きさの関係をとらえたり、場面に応じて余りを処理したりできるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。

2 単元を通して目指す児童像

児童自ら考え進め、学びを深めることのできる児童

3 手立て

手立て① 「考えてみたい」を引き出すための工夫

児童が日常の想起しやすい日常の場面を設定する。問題場面を解決する際に、不都合が生じるような条件を提示し、不都合が生じた根拠を考えさせることで、「こうすれば解決することができる」という考えに気付かせるようにさせることで、その単元で解決したいことを見付けることができるようにさせる。

手立て② 解決した結果を統合するための工夫

授業の終末に、その時間に学んだことを振り返るポートフォリオを作成させる。その際、問題解決に用いた考え方、新たに学んだことをまとめさせるようにすることで、前時までの問題との共通点や、相違点を見付けることができるようにさせる。

4 検証方法

手立て② 本時の終末に、その時間に学んだことを振り返るポートフォリオを作成させる。その際、問題解決に用いた考え方、新たに学んだことをまとめさせるようにすることで、解決した結果を統合することができたかを児童の学習の記述から検証する。

5 単元計画

【第1時（導入）】手立て①



クラスみんなで4人ずつの班に分けたいと思います。

4人ずつだとうまく分けることが難しいなあ。



それでは、5人ずつだったら分けることはできるでしょうか。

5人でもやっぱり分けることができません。



では、このクラスでグループ分けは難しそうですね。

分け方を変えればグループ分けをすることができると思います。



【第2時】



4人がけのテーブルにみんなで座っていきます。5つしかテーブルがないので、5組と余りは7人でいいですね。

余りが多すぎるので、まだ座れると思います。



テーブルを増やせばもっと座れると思います。



では、どのようにすれば良いかみんなで考えてみましょう。

【第6時（問題解決後）】手立て②



今日の学習では、余りをどのように考えましたか。

余りの分を考えて、1つ増やすことが大切です。



余りの分も答えに含めて考えました。



余りを答えに含めるときがあることが分かりましたね。

じゃあ、前のクラスで座るときもそうやって考えれば良かったんだ。

